

1 単元について

単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会編の地理的分野(2)内容B世界の様々な地域(2)世界の諸地域④北アメリカを受けて設定している。ここでは、北アメリカ州に暮らす人々の生活の様子を把握できる事象や、特徴的に見られる地球的課題と関連付けて学習テーマを設けて追及させ、北アメリカ州の地域的特色や地球的課題との関係性を捉えさせることをねらいとしている。北アメリカ州は、北アメリカ大陸とカリブ海の島々からなる州であり、気候や生活・文化の面において、多種・多様な広がりが見られる。

そこで本単元では、北アメリカ州の自然環境・文化・産業について概観させた上で、あらゆる面で州の中心を担うアメリカ合衆国を取り上げて、学習テーマを設定する。世界的にも影響が大きく、我が国とも繋がり深いアメリカ合衆国を取り上げることで、地域的特色や地球的課題を適切に捉えて表現する上での、理解や考察のしやすさの一助としたい。

生徒観

本学級の生徒は、教師の指示に対して素直に反応し、作業的な学習に対しても集中して取り組める。定期試験前などにおける家庭学習や演習問題を解くことにおいても、自主的に取り組める生徒が多い。その反面、基本的な知識を活用して発展的な問題を考えることや、自分が理解したことを文章にして表現したり他者に伝えたりすることは苦手な生徒が多い。

アンケート調査では「社会科の中で地理が苦手」と答えた生徒が7割を占めた。「覚えてだけでは対応できない」という認識からのようであった。また「大勢の前で発表することが苦手」な生徒が9割以上いた。その理由は、「自信がないから不安」「どう答えてよいか分からない」といったものが大半であった。このことから、身に付けている知識や経験を土台として活用すること、資料やグラフから読み取ったことと繋げて考えること、また、自分の思考を整理・統合してまとめることに課題があることがわかる。この課題が克服されていくと、自然と意見を表出することへの苦手意識は薄れていくものと思われる。

指導観

本単元では、北アメリカ州を大観する学習を踏まえ、地理的な特徴やそれらを活用した人間の営みを概観させ、地域内の結び付きなどに着目して、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を行う。また、本単元では、主にアメリカ合衆国を扱い、様々な統計資料を複合的に考察させ、導かれた振り返りが、単元を貫く問いである「なぜ、アメリカ合衆国は、世界の中心となる経済大国となったのか？」につながるよう構成する。また、身に付けた知識を活用することや資料やグラフから読み取ったことをつなげることが苦手であるという生徒実態を踏まえて、複数の資料を提示し、それらをつなげて考察する活動を設定する。その中で出てきた友だちの意見を自分の考えと関連付けて、思考を整理・統合し、グループの意見として発表させることで、意見を表出することへの苦手意識の克服につながる。

【生徒指導の三機能との関連】

「自己決定の場を与える」機能を生かして、興味・関心をもたせるために、身近なものの写真などを導入で提示し、主体的な学びを促す。また、めあてを明確に示し、終末にめあてに対するまとめを行う。授業の中では個人思考をする場面を断続的に設ける取組として、ノートに思考の跡を残すスペースを作る。このスペースには、教師による説明の時間や板書を書き写している最中にも、個々が思考したことや気付いたことをキーワード等で書き込んでいくことを継続的に指導する。そうすることで、常に主体的な学びの形が作れ、受け身の授業になるが故の集中力の欠如を防ぎ、絶え間ない自己決定の場を与えることに繋がると考える。さらに、このノートの取り方が習慣化することで、様々な情報のインプットとアウトプットを自然と繰り返すことになり、思考を整理・統合することの強化に役立つと思われる。さらに本時では、学習テーマに対して答える材料となる資料を、自ら選ばせることによって、テーマを自分のものとして捉え、自発的に考えようとする姿勢になるようにしたい。

「自己存在感を与える」機能を生かして、異なる資料を選択した小グループを一つのグループにし、協議させることで、個々の意見の有用性を高め、協議に自分も関わったという実感をもたせる。また、グループ協議では、役割分担を明確にし、協議が滞っている場合は、より具体的な視点を与えたり、新たな問いを投げかけたりすることで、協議を活性化するように支援する。

「共感的人間関係を育成する」機能を生かして、社会科の授業では2～3人での小グループ学習を基本とする。これは、生徒の自信の無さによる不安を軽減したり、自分の持っていない視点を補ったりする効果を狙ったものである。授業規律の徹底や、個人でじっくりと考える時間の確保が難しくなることとの兼ね合いがあるが、主体的な学びを維持するために、効果的にこの機能を利用していきたいと考える。本時では通常の小グループ学習に加えて、グループ同士を集めて大グループを作り、互いのグループの意見を持ち寄らなければ、より良いまとめに辿り着かない仕掛けをしている。こうすることで、互いの考えを肯定的に聞き、積極的に取り込みながら建設的な話し合いが必然的に行われるものと思われる。さらに、教師と生徒の間で行われる会話においても、生徒の発言やつぶやきが、教師を介して全体に共有されたり、肯定的に取り上げられたりすることで、有用なものとして扱われるように心掛けたい。

【資質・能力の育成】

本単元では、小単元ごとの学習テーマに答えるための学習の過程で、各種資料やグラフを適宜用意して活用することで、資料の読み取り技能の向上を図りながら、単元を貫く主題に対する答えを明らかにしていく。また、各種資料から読み取ったことを比較したり関連付けたりする技能も育みたい。さらに、生徒同士の交流や、自分の考えを文章化することで、多面的・多角的に考察することを促して思考を深めるとともに、表現する力を高めていきたい。

単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的事象に ついての知識・理解
○北アメリカ州の地域的特色を理解するために、アメリカ合衆国を中心とした学習テーマを意欲的に追求できる。	○北アメリカ州の学習テーマを追求していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を文章で表現できる。	○北アメリカ州に関する統計資料の分析、雨温図・主題図・写真の読み取りや比較、関連付けなどができる。	○北アメリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観し、基礎的・基本的な知識を理解できる。

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的事象に ついての知識・理解
○北アメリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観する中で、特にアメリカ合衆国の産業に関心をもち、設定した学習テーマを意欲的に追及している。	○北アメリカ州の中でも、特にアメリカ合衆国について、学習テーマにまつわる事象を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○北アメリカ州の中でも、特にアメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色や、巨大な工業生産力の様子について、様々な資料から、情報を適切に選択して読み取っている。	○北アメリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景について概観し、その基礎的・基本的な知識理解している。

2 指導計画（全5時間）

時	学 習 内 容	評 価				
		関	考	技	知	
1	北アメリカ州をながめて 大陸と島々 人々と文化 産業の発展と地域差	○			◎	○北アメリカ州を概観する中で、産業に関心をもち、その特色を意欲的に追究している。（行動観察） ◎北アメリカ州の自然環境や、人々の暮らしの様子などを概観し、その特色を理解している。（行動観察、白地図帳）
単元を貫く学習テーマ 「なぜアメリカ合衆国は、世界の中心となる経済大国なのか？」						
2	広大な国土と工業化した農業 農業に適した広い土地 大規模で工業化した農業 農業に進出する企業 【本時】		○		◎	○アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方法、経営者のそれぞれの特色から説明している。（行動観察、ノート、発表） ◎アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、主題図や写真などのさまざまな資料を関連付けて読み取っている。（行動観察、ノート）

3	工業の発展と工業地域 豊かな資源を利用した工業 情報化と新しい工業の発展 経済を支える人々		◎	◎	◎アメリカ合衆国で発展してきた重工業や 先端技術を用いた工業の特色を、写真、 グラフ、分布図などから読み取り、適切 にまとめている。(行動観察、ノート) ○アメリカ合衆国では、移民が産業の発展 に重要な役割を果たしてきたことを理解 している。(行動観察、ノート)
4	産業を支える新しい文化と 人々 快適な生活の追求 豊かな国を支える人々	○	◎		○日本にも広がるショッピングセンターや ファストフードなど、世界に広がるアメ リカ文化に関心をもっている。(行動観 察、ノート) ◎アメリカ合衆国の産業と、人々や文化と の関りについて考察し、その特徴につい て説明している。(行動観察、ノート、発 表)
5	北アメリカ州の学習を振り返 ろう		◎	◎	◎アメリカ合衆国が世界の大国である背景 や要因、またそのことによっておこる課 題について、論述したり、意見交換した りしている。(ノート、発表) ○地図や写真、主題図などの資料を関連付 けて、北アメリカ州の地理的事象を理解 している。(行動観察、ノート)

3 本時の展開（本時 2 / 5）

(1) 本時の目標

アメリカ合衆国の農業の特色を、主題図や写真などの複数の資料をもとに、関連付けて読み取ることができる。

【社会科/資料活用の技能】【資質・能力/技能】

(2) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ☆生徒指導の三機能につながる手立て ◆「支援を要する」生徒への手立て	具体的評価規準 (評価方法)
出会う・つかむ (5分)	1 前時の振り返り	○アメリカ合衆国が、農産物や畜産物において、生産量・輸出量ともに多いことを確認する。 ○日本にとってもアメリカが主要な貿易相手国であることを確認する。 ○さらに写真を提示し、実際にアメリカ製品が身近に多くあることを認識する。	自己決定の場 ☆興味・関心がもてる工夫をすることで、主体的な学びを促す。
	2 日本の主な輸入品の貿易相手国のグラフを読み取る。		
3 本時のめあてを確認する。	なぜ、アメリカ合衆国は世界有数の農産物の生産国であり輸出国でもあるのか？		
考える・深める (30分)	4 AとBの二つの資料群から一つを選び、資料から情報を読み取ってまとめる。 (小グループごと)	○AとBの資料群を提示する。 A群 ・北アメリカの農業分布 ・北アメリカの年降水量と平均気温 ・主な農作物の栽培条件 B群 ・アメリカ・フランス・日本の農業の比較 ・グレートプレーンズの円形農場（写真） ・小麦の収穫風景（写真） ・牛の肥育場（写真） ○資料の読み取りに入る前に、もう一度めあてを確認する。 ○A群、B群を選択した小グループが同数程度になるように促す。 ◆小グループごとに、不足している視点を加えて、まとめに辿り着けるよう支援する。 ◆同じ選択をした他の小グループを参考にさせることも考える。	自己決定の場 ☆読み取る資料を見た上で、授業においてどの課題に取り組むかを自分で決定する場を設ける。 自己決定の場 ☆目的意識を明確にすることで、課題を自分のものとして捉えられるようにする。 ◎アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、主題図や写真などのさまざまな資料を関連付けて読み取っている。(行動観察、ノート)

<p>考える・深める (30分)</p>	<p>5 A群, B群を選択した小グループで一つの大グループを作り, 互いの読み取ったことを伝え合い, 本時のめあてに対する答えを考察して, ホワイトボードにまとめる。</p> <p>6 ホワイトボードを黒板に貼り, いくつかの大グループが発表をする。</p>	<p>○小グループごとの様子をみとって組み合わせを考え, 大グループになる指示をする。 ○A群, B群それぞれで読み取ったことを, 必ず取り入れて答えを完成させるよう指示を行う。 ○記入者は, 発表者にはなれないことを指示する。(役割を分ける)</p> <p>◆大グループ内でのまとめ作業が滞っている場合, まとめを促すような視点を加えたり, 問いかけをしたりする。</p> <p>○残り時間を考えながら, 発表するグループの数を調整する。 ◆上手くまとまっていなかったグループの答えの中からも, 良い表現やキーワードを取り上げる。</p>	<p>共感的人間関係 ☆読み取ったことを肯定的に受け入れ, 協力して一つの答えをまとめる作業を仕組む。</p> <p>自己存在感 ☆互いの情報が必要不可欠になるようにすることで, それぞれ意見の有用性を高める。</p> <p>○アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を, 気候, 生産方法, 経営者のそれぞれの特色から説明している。(行動観察, ノート, 発表)</p>
<p>ふりかえる (15分)</p>	<p>7 本時のまとめを行う。</p> <p>8 本時を振り返り, 再度自分で本時のめあてに対する答えをノートにまとめる。</p>	<p>○通常の小グループの形に戻す。 ○補足が必要な資料の説明を入れたり, 短い動画を見せたりしながら, 板書を整理していく。</p>	<p>自己存在感 ☆授業に対して自分も関わったという気持ちをもたせる。</p> <p>自己決定の場 ☆課題に対する答えを自分の言葉でまとめる場面を設ける。</p>
<p>アメリカには広大な土地があり, そこで自然環境に合わせて適地適作が行われていたり, 大型の機械を使って企業的な農業が行われていたりすることで, 自国で消費する以上に生産することが可能だから。</p>			

(3) 板書計画

